

2022年12月1日(木)

「地域資源を活かそう」

参加者感想・コメント

ちんちん電車の思い出

- 保原駅に勤務していた今から62年前を思い起こし、あれからのことを書き留めたい。一つは、当時保原駅は商業の中心にあり、家具(タンスが主)や食料(肉屋が中心にあった)が盛んで、伊達駅から貨車により保原に運ばれた。二つ目は、大石プラムの苗木が全国に発送され、また桃が全国に発送された。夏には毎日行列ができた。
- 家の前を電車が走っていた。
- 小学生の時、線路に釘を置いて遊んでいた。
- 福島市出身ですが、電車の走行音と共に育ちました。電車は真に生活の一部でした。廃線は悲しく、毎週自転車で福島から伊達の車庫に通い写真を撮りました。今思えば、全国でも珍しい軌道線にもっと関わっておけばよかったと思います。
- 小学校6年生時に鎌田支所前で降りた際、1000円札を出しましたが釣銭が無く、大変怒られた記憶がありました。その際、車掌が駐車場の前の酒屋で両替してお釣りをもらった覚えがあります。今思えばずいぶんのんびりしていたと思います。
- 昭和46年9月に廃止となった電車。私は昭和46年9月に生まれたこともあり、思い出はなくても、思うところがあります。電車は、過去に存在したこと自体が足り継いでいくべき大切な文化だと思います。デジタル全盛の今ですが、アナログにはアナログなりの長所が必ずあるので、途切れることなく継いでいきたいと考えます。

ちんちん電車のこれから

- 町の発展には電車が欠かせない。
- にわとりと卵になってしまいましたが、電車が町のシンボルになるようなことをまず考えてはと思います。物理的な環境を整える必要があると思います。なぜここに電車があるのか、それがスタートだと思っています。環境を整えばいろいろなイベントが考えられると思います。
- 現在は屋根がなくさびも出ているので、屋根を付け、使用しないとどんどん劣化してしまうので、常時使用できるようにしてほしい。

※いただいた感想・コメントは内容に応じて分けたくうえで、並べ替えて掲載しています。

伊達市市民活動支援センター

2022年12月1日(木)

「地域資源を活かそう」

参加者感想・コメント

- 廃線50年を超えた路面電車。思い出とともに、これからの地域の交通体系の確立の生きた参考資料となるために、伊達市にはぜひ屋根をかけていただき、車体保持に頑張っていたいただきたい。
- ゲタをはいたままでも気軽に乗れる、まさに庶民の集まる夢のある乗り物だ。飯坂線曾根田駅のアイデアは最高だ。マネをするのもいいと思う。
- 喫茶コーナーでせまい車内を有効に活用し、マルシェなどで人を集めるなど。高校生を軸にした活動アイデアもあるようですが、私は昔、車掌をしていた経験上、電車には人々の集まる素晴らしい空間がある。
- 販売スペースとして有償で貸出しして、得た収入をメンテナンスに当てる。
- 2年前まで飯坂の堀切亭に努めており、明治のころの歴史にかなり興味を持ち、電車も興味を持ちました。堀切亭さんも電車開通に協力したとのことだそうです。近い将来、観光列車として飯坂電車と連結して走らせたいです。

その他

- パッチワークのように「あるものを活かす」という視点は、まちづくりにとって非常に大切だと思っています。
- 電車を修復して本当に良かったと思います。ベンチに人がいる姿を見て喜んでいました。活用について、やっと考える機会ができたこと、支援センターの活動に感謝いたします。
- 今後、この回を続けて実施していただきたい。地域づくりに役立つと思います。
- チンチン電車の今後に希望を持ちました。
- 素晴らしい会でした。ありがとうございました。
- 遅れて参加しましたので、市岡先生のお話が聞けず残念でした。
- テーマが事前に欲しい。時間が足りない。

※いただいた感想・コメントは内容に応じて分けたくうえで、並べ替えて掲載しています。

伊達市市民活動支援センター